

どうして、ことばなんだろう？

斉藤倫にきく、ことば、詩、物語のこと

企画 福音館書店 + 東京学芸大学附属学校司書部会



『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』、詩集であって物語、そんな一風変わった作品がこの春、福音館書店から刊行されました。子どもにむけた詩の指南書は数多く刊行されていますが、本作は少し趣が異なります。主人公は、中年男である「ぼく」と、小学生の男の子「きみ」と、詩。

萩原朔太郎「猫」、中野重治「真夜中の蟬」、金子みすゞ「大漁」、松岡政則「痛点まで」……。詩をめぐる物語の中で、「ぼく」と「きみ」は、ことばについて、人間について、生きることについての思索を深めていきます。

著者の斉藤倫さんは、詩人としてその創作のキャリアをスタートし、2014年、長篇物語『どろぼうのどろぼん』で児童文学の世界にデビューしました。その著者自身が、自らの創作活動の、これまでとこれからを区切る作品と語る本作をとば口にして、ことばについて、詩について、物語について、詩人でもあり、児童文学作家でもある斉藤さんだからこそ持ち得る多様な視点から、存分に語っていただきます。案内役は、今作や『どろぼうのどろぼん』など、斉藤さんの作品を担当してきた編集者・岡田望が務めます。

人にとってのことばを捉えなおすことで、詩や物語についての考察を深め、またこれらを子どもたちに届けていく魅力的なありかたを、みなさんと語り合える会にできたらと考えています。



開催概要

- ◇開催日 2020年1月18日(土)
- ◇日時 13:00～17:15 (受付12:30)
- ◇定員 40名 *定員になり次第締め切りとなります。
- ◇会場 福音館書店 地下会議室
〒113-8686
東京都文京区本駒込6-6-3
JR山手線・都営三田線「巢鴨駅」
都営三田線「千石駅」よりいずれも5分。
<https://www.fukuinkan.co.jp/company/>



プログラム

- ◇第1部 13:10～14:40 (90分)
斉藤倫さんと担当編集者トーク
～休憩 20分～
- ◇第2部 15:00～16:20 (80分)
参加者と登壇者、座談会
*グループを2つにわけ、座談会を実施します。斉藤さんや編集担当への質問はもちろん、ことばや詩、物語を子どもたちにどう届けていかなど、いろいろな話がみなさんとできたらと考えております。
(途中でチームの入れ替えを行います)
- ◇第3部 16:30～17:10 (40分)
斉藤さんサイン会 / 原画説明
*希望者のみ

お問い合わせ 福音館書店 宣伝課・堀越 mhorikoshi@fukuinkan.co.jp / 03-3942-2066



登壇者プロフィール

斉藤倫(さいとうりん)

詩人。詩集に『手をふる 手をふる』(あざみ書房)、『さよなら、柩』(思潮社)、『本当は記号になってしまいたい』(私家版)など。初の長編物語『どろぼうのどろぼん』(福音館書店)で、児童文学協会新人賞、小学館児童出版文化賞を受賞。そのほかの作品に『せなか町から、ずっと』(福音館書店)『波うちぎわのシアン』(偕成社)、絵本『どうだい』(福音館書店)、『はるとあき』(小学館)などがある。また、『えーえんとくちから 笹井宏之作品集』(PARCO出版)に編集委員として関わる。

岡田望(おかだぼう)

2001年、福音館書店入社。月刊誌「母の友」編集部を経て、童話第一編集部在籍。斉藤倫作品は、『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』のほか、長編デビュー作となる『どろぼうのどろぼん』、『せなか町からずっと』などを担当。その他の担当作品に、上方落語を題材にとった「落語少年サダキチ」シリーズ、梨木香歩の長編ファンタジー、マッドガイド・ウォーターシリーズ(『岸辺のヤービ』、『ヤービの深い秋』)などがある。11月には『Michi』のjunaidaによる絵本『の』が刊行予定。

お申込みは、
こちらのQRコードまたは
URLからお願いいたします。
*定員になり次第締め切りとなります。



<http://urx2.nu/mrfw>